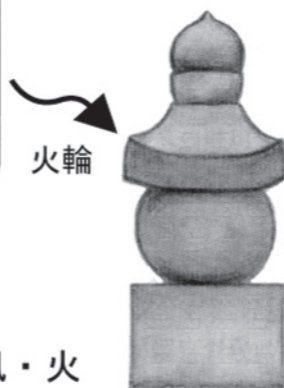
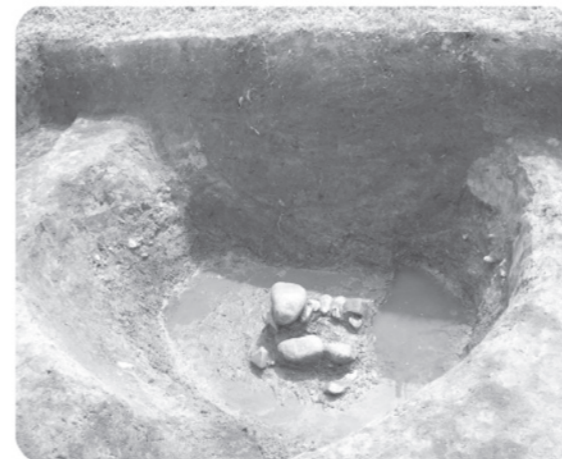


宮上道遺跡の発掘調査

遺跡は、昔の人たちの痕跡が地面の下に残っている場所です。発掘調査によって昔の人たちの生活のあとや当時使われていた食器などが見つかりました。



直径約3.5mの大きな井戸です。ポンプをかけながら掘りました。水がすぐに湧いてきます。



井戸

竪穴住居

溝の中から、五輪塔（中世の墓石）の一部が出土しました。溝の上方にお墓があったのかもしれませんが。

上から、空・風・火・水・地、つまり宇宙のすべてを表しています。

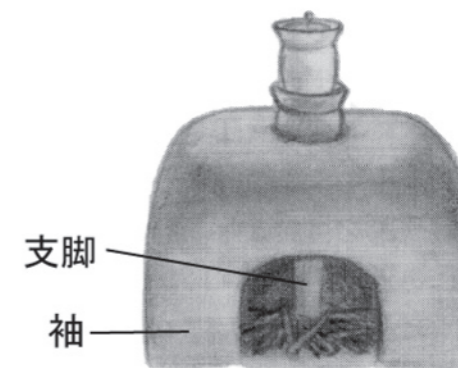
溝

穴



カマドの袖には平瓦が使われていました。

カマドの中から、当時使われていた椀・鍋・甑などの破片や、支脚が出てきました。



支脚

袖



線路側



宮上道遺跡は安楽川と鈴鹿川に挟まれた河岸段丘上に位置します。同じ丘陵上には他にも縄文時代から室町時代の遺跡や、古墳が数多く分布しています。宮上道遺跡から600m南西にある茶臼山1号墳(亀山市井田川町)は、非常に多くの副葬品が出土した横穴式石室をもつ古墳として特に有名です。安楽川を挟んで北へ1.2kmのところには伊勢国府跡があり、鈴鹿川の対岸約2kmの国府町付近に移転後の国府があったと考えられています。また、中世になると国府町には関氏の国府城が築かれます。

宮上道遺跡周辺では、国道1号線の西側の羽舞場遺跡で平成8年に調査が行われ、弥生時代の溝と古墳時代の竪穴住居が確認されています。

今回の調査は、道路工事で遺跡が壊されてしまうため、写真や図面をなどの記録を保存しておくために行いました。

調査の成果

今回の調査では、奈良・平安時代と鎌倉・室町時代の遺構が検出され、当時使われていた土器・石器がコンテナケースに30箱ほど出土しました。

鎌倉・室町時代

土坑(穴)・溝・井戸などから、土師器の鍋や皿、山茶碗、常滑製品の壺・甕、などが多く見つかりました。瀬戸製品の壺・皿、青磁や白磁、五輪塔も少量見つかりました。

調査区の全域から、多種多様な穴が確認されました。何のために掘られたのか判らないものが沢山ありますが、ごみ捨て穴や貯蔵穴、水溜・土取穴・お墓などが考えられます。

井戸は、深さ1.5mほど掘りましたが、まだ底には達していません。

他にも、掘立柱建物の柱穴になる可能性がある小穴は多数見つかりました。残念ながら建物はまだ検討中で確認できていませんが、近くに集落があったことは推測できます。古瀬戸の四耳壺や常滑の三筋壺はよく骨壺として使われるので、五輪塔の火輪とともにお墓やお寺の存在を連想させます。

奈良・平安時代

竪穴住居1棟から、土師器の椀や鍋、甑(こしき)などが見つかりました。

竪穴住居とは、地面を掘りくぼめ、上に屋根をかけた半地下式の家です。今回検出した竪穴住居には、南東壁にカマドがありました。カマドの袖には補強のために平瓦が使われていました。おそらく伊勢国府跡で使われていたものと同じ瓦です。カマドの中には、鍋を支えるための支脚があり、土師器の椀をかぶせてありました。カマドを壊すときのしきたりのようです。

縄文時代

遺構は確認されませんでしたでしたが、縄文土器も出土しました。以前は、古墳～鎌倉時代の遺跡と考えられていましたが、発掘調査によって縄文時代にまで遡る遺跡であることが判りました。